



教育目標 心豊かで、高い知性をもつ、健康な生徒の育成

前期選抜の結果出る



17日に公立高前期選抜結果の発表がありました。早めに進路を決めた3年生もいれば、これからいよいよ勝負のときという3年生もいます。よく使われる「受験は団体戦」という表現は、最後の一人が決まるまで、学習に取り組む空気が集団内あることが大切という意味です。「自分の進路は決まったから・・・」と学習の雰囲気から抜けてしまうと、そのまま中学校を卒業、そのまま高校に入学となんとなく続き、そのまま残念な高校生活に突入する可能性も高まります。過度はともかく、心地よい緊張感は成長の材料です。

校門前の階段で

教員寮を過ぎて校舎の段に上がるための階段があります。少し前のことになりますが、放課後、雪かきをしていたら、ある3年生が「ぼくも雪かきを手伝います。」といって、雪かき用の角形スコップを持ってどンドンやってくれました。その3年生が言うには、自分は進路が決まったので、これからがんばる人たちの手伝いがしたいということでした。

また、プラスチックの雪かきは昔割ってしまったことがあるので、鉄製の「角スコ」を使いたいと頼もしい限りでした。進路が決まった人は、これから決めていく人の支援をするというのが、毎年の3学年の方針です。ほかの3年生がすべて転んだりしないようにと、しばらく作業を続けてくれたおかげできれいな階段になりました。



新型コロナウイルス感染症対策 ～なんとなくではなく確実に～

手洗い等の手指消毒、部屋の換気、マスクの着用、検温(健康観察)は続けているうちに、「今回くらいは・・・」という気持ちになるのが人情です。

**新型コロナウイルス感染症には、
基本的な感染予防対策が有効です**



動いている機械のねじは、その振動で少しずつゆるんできます。点検でそういう箇所を確認して、事故につながらないように心がけます。感染症対策も同じです。剣道でも茶道でも、華道でも「所作」は重要です。そこにエッセンスが詰まっているからです。感染症対策での手洗い、換気、マスクが感染症での「所作」にあたります。これからも、当分の間は対策を続けていきましょう。

「したをみるな あしたをみろ」

先日の公立高前期選抜発表後に、3年担任が後期選抜受検予定者にかけてた言葉です。残念な結果に、とぼとぼとうつ向いて歩いて帰るなよ。明日からを考えて気持ちを切り替えてこそ次のチャンスはやってくるんだよ という意味で語りかけたのでしょう。冷たい水を浴びれば温かい湯のありがたさに気づくように、人は苦しみや悲しみを知ることでより成長していきます。翌朝、合格はしなかった3年生何人かに声をかけたら、吹っ切った表情を見せてくれました。

良寛さんは ～「病むときは病むがよろしく候」～

病気になったときには、病気になったことを受け入れ、その中でやるべきことを行うのが最良の対処法であるという意味です。

「どうしてこんな病気になってしまったのだろう？」とか「本当に治るのだろうか？」とかあれこれと思わずらうことなく、病気を治すためにやるべきことと、その中でできることを、ただひたすらやるということが大切だと良寛さんは言っています。

このように自然に逆らわない生き方をすることで、焦りや不安を小さくすることができ、心が穏やかになるため、病気などからの快復も早まると良寛さんは考えていたのでしょう。

